



ひとう



海援隊旗(二曳きの旗)

http://www.ryoma-kinenkan.jp

喜色 KISYOKU MANMEN 満面

記録から伝わる忘れられた豊かな時代 『外国人から見た日本 古き良き江戸時代』展

会期：10月26日(土)～1月24日(金)

驚きをもって書を記す

幕末維新前後に日本を訪れた多くの

外国人は、日本の美点について驚きをもって書き記している。例えば、ペリーは「人々は幸福で満足そう」、オールcottも「日本人は幸福で気さくな、不満のない国民であるように思われる」と記している。また、リンダウは「日本人ほど愉快になり易い人種は殆どあるまい。良いにせよ悪いにせよ、どんな冗談でも笑いこける」、ポーヴォワルも「この民族は笑い上戸で心の底まで陽気である」、オズボーンも「不機嫌でむっつりとした顔にはひとつとして出会わなかった」と記している。

色々な国を見てきた外国人たちは、客観的な目で日本を見て、豊かではない



『ペリー提督日本遠征記』挿絵

現代の日本人は、江戸時代のことを遅れた社会のようなイメージを持つ人も少なくない。封建社会で身分に差があり、職業選択の自由が無く、文明から隔絶された社会など、負の面も確かにある。しかし、近・現代より優れた点も多くあった。

が、貧しいながらも幸福な社会だと感じていた。

他にも、町や村の清潔さや人々の衣服の清潔さ、食べ物や粗末にせず余った物を懐紙に包んで持ち帰る習慣、年長の子どもが幼い子どもを見守り安全に遊べる社会、知的水準の高さ、外国人に対して友好的で好奇心旺盛な人柄など、多くの美点を書き記している。

初代アメリカ総領事ハリスは、「日本を開国して外国の影響を受けさせることが、果たしてこの人々の普遍的な幸福を増進する所以であるかどうか、疑わしくなる。私は、質素と正直の黄金時代を、いずれの他の国におけるよりも、より多く日本において見出す」とまで記している。

閉ざされた国であっても
平和で幸福な面もあった

おそらく日本人は、外国人が見たように、幕末まで大きな不満を抱かずに暮らしていたのだろう。しかし、開国して外国を知った時初めて、日本がいかに貧しく、劣った社会だったかを知り、文明社会に憧れを抱いた。そして、帝国主義にも憧れを抱いた日本は、江戸時代には友好関係だった隣国の清や李氏朝鮮との関係を自ら壊してしまった。江戸時代は貧しく遅れた封建社会だとしても、隣国との争いが多い近・現代より、平和で幸福な面もあった。また、豊かな社会や、個が尊重されることによって、忘れさられた良き習慣もある。本展では、こうした外国人の記録から、真の江戸時代の姿を伝えることによって、江戸時代から学ぶべきことを探る。

三浦 夏樹

あと一カ月

「土佐の武術」展

現在開催中の「土佐の武術」展に関連し、10月5日に「山北棒踊り」および小栗流和術の実演を開催する。

山北棒踊りは、300年の伝統を誇る県の無形民俗文化財で、龍馬も学んだ小栗流棒術が元となっている。地唄に合わせて10人ずつ2組に分かれ、騎馬戦のように陣を組んで棒を打つ「本棒」と、2人1組で棒の型を披露する「小棒」から成る。踊りと名がついているが、真剣に棒を打

ち合うさまは棒術の稽古そのものの迫力である。また、当日は合気道高知道場の協力で、展示中の「小栗流和術語録」にある和術の技から、いくつかを実演していただけることとなった。併せてご覧いただきたい。

10月5日(日)
13時半～ 小栗流和術の実演
14時～ 山北棒踊り
いずれも記念館前

(雨天時は八策の広場)にて
亀尾 美香

妻 眞喜子が語る

「作家・宮地佐一郎の思い出」③ 「一番輝いていたとき」

宮地眞喜子の手元には、『龍馬全集』初版(全一巻、昭和53年、光風社書店発行)がある。監修・平尾道雄、編集解説・宮地佐一郎。本文1,028ページ、B5判。本体の厚さは7cmもある大きな本で、ずっしりと持ち重りがする。

「坂本龍馬全集」と龍馬記念館
「坂本龍馬全集」は、作家から龍馬研究へと進んだ宮地佐一郎、渾身の著である。書き上げは発行前年の昭和52(1977)年。佐一郎はこの本の発行に向けて5年間、取材と執筆に専念した。50代の仕事盛りである。「資料を求めて北海道から九州まで。旅に出るときは佐一郎さんの嬉しそうなこと。玄関先で彼と握手をして見送るんですけど、私も連れて行ってほしいとすねたことは、何度もありました」と笑う。

旅先からはよく電話がかかってきた。「ふだんは俺の部屋に勝手に入るな、なんて言っているんですけど、机の上にある大事な書類を送ってほ



「坂本龍馬全集」出版記念パーティーで、宮地夫妻と坂本直行(右端)。坂本直行は郷土坂本家 8代目で農民画家=昭和53(1978)年

「私ね、きょうもこれを読み返してましたのよ。これを読むといういろんなことが思い出されますからね。たくさんさんの付箋が貼られ、行間の随所には佐一郎の字で細かい書き込みが見える。眞喜子はそんな傍らの本を、存外軽そうに扱う。長年親しんだ書物であると同時に、茶道で鍛えた足腰の強さがあるからだろうか。

しいという電話もあったわね。うず高く積まれた紙の中から指示通りのところに書類があつて、感心したり。眞喜子は、まるで目の前の出来事のように数十年前を語る。そんな眞喜子の目が、ふと遠くを見つめた。「今思えば、命を削る仕事だったと思いますよ。それでも、佐一郎さんの人生で一番輝いていたときでしたね。」

「坂本龍馬全集」の評価は高く、龍馬研究には欠かせない一書である。増補4訂版を重ねた。同書が改訂を重ねた頃を前後して、高知県立坂本龍馬記念館建設運動が起り、記念館は建てられた。

「本当にうれしかったと思います。記念館にはまだ資料がない。からっぽだ。資料を取めなくては、とよく言っていましたね。眞喜子の言う通り、宮地佐一郎氏の寄贈資料は開館当時の資料の大半を占め、今日に至るまで多くの寄贈をいただいている。同書に関わる歳月に集めたものであ

しかしなぜ、直木賞という日本最高の文芸賞候補に3度も挙げられた作家が、龍馬研究へと移ったのか。「坂本龍馬全集」初版の最後に、「筆者は謹んでこの全集を、二人の師に捧げたい」とある。二人の師とは文芸評論家亀井勝一郎と、作家大佛次郎である。その辺りも含め、次回は大佛次郎について、眞喜子の話をつなごう。

前田 由紀枝

聞き書き

私のジョン万次郎論(下)

「マンガですか？」が始まり

歴史研究家 永国 淳哉



「平尾先生にすめられ」

私が、万次郎研究に取り組み始めたのは35年程も前になる。その頃、RKC高知放送のラジオ「朝のワイド」のパーソナリティをやっていた。番組の後、いつもの喫茶に高知新聞社の嘱託だった平尾道雄先生が時々現れ、スタッフも一緒に寄り添って喋りをした。万次郎を勉強し始めたのは「漂異紀畧」を手にしてからである。「これマンガですか？」

「漂異紀畧」を読む

文書も、難しい漢字にはルビが付けてある。「ジョン」とは、卑物を呼ぶの発音ならん。

「ジョン」とは、ジョン・ダウ。万次郎だ。分かれると嬉しくなり、この古文書がますます面白くなってきた。

でも、ジョンの名前が、卑物ですか。アメリカの友人が「John」と言っていました。そんな話をしていると、ジョン・ダウとオリジナルな「漂異紀畧」が高知市大津の松岡鬼一氏宅にある。と、番組で見に行くことになった。

大津本に出会う

虫食いの古文書を旧家の畳に正座して一枚一枚開いていく。巻之三の最初の部分だ。万次郎が、他の4人の仲間と別れ、独りでハワイを出港する。

「ジョンマン」と称へられ、「ジョン」ハ彼國にて下人を尊び呼ぶの語と云ひ、又下人を呼ぶの発音なりと云 其意味未だ堅辨せず」



「漂異紀畧」の同じところの文章が、貴司先生のコピーと違っている。両方を読んでみて、私の体験してきたアメリカの「ジョン」というニックネームの感覚と符合した。日本であれば、「太郎」「次郎」「花子」などは、「尊び呼ぶ」名前なのか「卑物」なのか、その意味はEugeniusだというのである。これは勿論一例だが、こうした勉強をしているうちに万次郎という人物が、正しく観察し、正しく報告、していること確信。ここから私の幕末研究の全てが始まったように思う。

土佐文化史研究

もともと私は、大学院でマックス・ウェーバーを中心とした国際比較社会学に興味を持ち、吉田東洋も学んだが、万次郎の話は全く出なかつた。しかし、「漂異紀畧」という古文書を知ったお陰で、万次郎研究だけでなく、幕末当時の世界が



「幕末日本を通訊」

田中瀧治先生との出会い
古書研究家の田中瀧治先生に出会ったのも幸いしている。先生が、高輪で断酒し、その蒐集された、酒の本、を図書館に寄付された。丸顔の先生に「これからはジョン万を・・・」と、お願いした。

色々研究できることを知った。関連古文書を基盤に土佐文化史を研究し始めた。「幕末日本を通訊」田中瀧治先生との出会い
古書研究家の田中瀧治先生に出会ったのも幸いしている。先生が、高輪で断酒し、その蒐集された、酒の本、を図書館に寄付された。丸顔の先生に「これからはジョン万を・・・」と、お願いした。

「勇氣」ある人物

万次郎の長男・東一郎氏は、「父親は生来、義侠心に富んだ男」と言っている。また曾孫の中浜博先生は、その証左として危険な金山で帰国旅費を作り、鎖国日本に仲間を連れ帰ったことも、「彼の義侠心のなごしめるところ」としている。

鯨捕りがなにより好きな自然である万次郎。私にとっては常に、勇氣、ある男である。困難な時を示す優雅さ。静かなる落ち着き。ヘミングウェイの勇氣。Grace under pressure. 旅が好きで、料理も得意。甘いものなら大好き。決して威張らず、歌をうたうのが好きな土佐の男、英語の詩、俳句もできる。不意に鳴り 帆の鳴る 風の速やかな 土州産 萬次郎作

お知らせ
筆者、永国淳哉氏は9月21日急逝されました。ジョン万次郎研究家の永国氏にとつて奇しくもこの原稿が遺稿となりました。ご冥福をお祈りいたします。合掌。

ハワイ・プナハウスと土佐塾高校との交流始まる

2013プナハウ海外プログラム日本研修 Japan Study Abroad Program

きっかけは龍馬記念館の企画「風になった龍馬」



高知での体験やハワイでの平和学習を発表する高校生たち = 7月27日、土佐塾高校で

7月20日から2週間のプログラムで、ハワイ・プナハウスと高知の土佐塾高校との交流がはじまりました。これはプナハウスクールのWOインターナショナルセンターが主催する隔年の日本研修で、プナハウスクールをはじめとするハワイやシアトルの高校生13人と、教員3人が来高した。4週間の日本研修の中心である2週間を高知で学ぶ準備は1年前から始まったが、交流校に土佐塾高校が決定して以来、同校も熱心な準備にとりかかった。土佐塾高校からも13人の生徒と教員らが参加し、日米の高校生は室戸、中芸地区(安田町、奈半利町、田野町)、高知市、土佐清水市と県下を回って、体験学習をはじめ、歴史や文化に触れる短期留学プログラムを行った。「高知が大好きになった。絶対また来ます」という言葉を残して、ハワイの高校生たちは広島島に向かい、8月6日の平和記念式典に臨んだ後、広島女学院高校でこの夏の成果を発表した。ハワイと高知のつながりは、記念館主催のアメリカフォーラムから生まれた。今年から始まった高校生たちの交流と活躍をこれからもしっかりと応援したい。

前田 由紀枝

終戦記念日に誓う 『第一回 夏休み』

「今、平和ですか？」戦争のない世界を目指して

子ども・龍馬フォーラム

龍馬大好き子ども等が語り合う

8月15日は68回目の「終戦記念日」。坂本龍馬記念館、現代龍馬学会、坂本龍馬財団では、この日、全国各地から龍馬ファン、小中学生20人を集め「終戦記念日に誓う！第一回夏休み子ども・龍馬フォーラム」を開いた。テーマは「戦争と平和・龍馬と命」。「けんかを見たら止められるような人間になることを目指す」など率直な意見が、会場の大人たちをうなずかせた。

小学4年生から中学3年生まで パネリストは20人の子どもたち

きっかけは、龍馬記念館の学芸員の「龍馬ファンの子どもの意見を大事にしよう」との発言である。一気に終戦記念日のフォーラムへと盛り上がった。結果、中心はもちろん子どもパネリスト、それだけでは単に意見を聞くだけに終わるので、フォロワーに館の3人の学芸員にも出てもらった。パネリストは20人を目標に、小学生から中学生までとし、原則、過去龍馬記念館に入館し、「拝啓龍馬殿」と龍馬に書かれた手紙の中から地域、年代を分散させて選ばせてもらった。その結果、小学4年生から中学3年生まで、県外から8人、県内12人となった。小学4年生で生徒会の書記に選ばれた女子児童。名前が「龍馬」の6年生。20回も「龍馬伝」を読んだ小学5年生。平成の志士」を目指すと言う女子中学3年生など、いずれ劣らぬ龍馬ファンである。

校歌に登場する坂本龍馬

地元からは龍馬の生まれた高知市上町の「第四小学校」から6年生5人が参加した。同校は開校142年と高知市の小学校では最も歴史が古くまさに「龍馬の時代」に接近している。校内には「りょうま、おとめ」の木があり、校歌には「坂本龍馬」の名前が出てくる。それに今年秋の社会科研究指定校になっており、現在龍馬の勉強中とグッドタイミングでもあった。一方、昨年全国社会科教育研究会の指定校になった昭和小学校では1年間龍馬学習に取り組んだが、中学1年生になった5人が勉強を通じて好きになった龍馬精神を発表した。

締めは坂本登さん

緊張していたのは会場に来られていた、保護者の皆さんだったかもしれない。わが子の発表態度をカメラに収めたり、腰掛から身を乗り出して見守っていた。「龍馬さんが好きで、自分から参加するといふので付いて来ました。思った以上に積極的でした」としました。と皆さん参加できたことを喜んでいました。また、1時間ごとの休憩時間には、オカリナ奏者、本谷美加子さんの演奏、ジャズダンスで平和の想いを表現するスガジャズダンススタジオ「レインボー」の演奏、プロジェクト11人によるパフォーマンスで盛り上がった。

追記

なお、子どもフォーラムについては、「坂本龍馬財団会報2号」にも関連記事を掲載しております。本紙とあわせてお読みいただくと、より詳細に分かります。

誓う！戦争なき世界目指して行動する うなづく会場の大人たち

パネリスト誓いの言葉は！



 改めて仲間を大切にすることを、命を大切にすることを「意味」がわかりました。龍馬を目標に頑張ります。	 皆との話を通して、仲間との協力、仲間を大切にすることの大事さを確信しました。将来の夢は学校の先生になることなんですけど、生徒達にも仲間を大切にしようことを教えていけるような先生になりたい。	 このフォーラムで学んだ「平和の大切さ」を後世に伝えていかねばならないと思いました。	 今回の友達とか、今日会った人とかも、そういう友達も仲良くしたい。大人になった時その友達が力になってくれると思うから、とにかく今の友達を大切にしなければいけない。	 この先は龍馬の生き方を参考に、自分なりの生き方を探してほしいと思います。
---	--	---	--	--

 龍馬が仲間を大事にしたように、自分も仲間を大切にしなければいけないことがよく分かりました。僕がやっているバスケ、トボールも仲間と協力しなければ絶対に勝てないスポーツです。仲間を大切に頑張ります。	 全国から集まった20人の龍馬たち。小学生の発言は頼もしかった。
---	-------------------------------------

会場が一つになって
さすが龍馬ファンの子供たちである。午前中の緊張感は昼食後完全に消えていた。半数以上が初対面のはずなのにすっきり打ち解け「仲間」になった。仲間の発言に拍手が沸き、学芸員の解説に全員がうなずいた。同じように、会場の保護者の皆さんも心配げな表情が和み一緒にうなずいていた。会場全体がまさに一つになった感じ。休憩時間のアトラクションのオカリナ演奏にはリラックス。同世代の子ども等によるダンスプログラムには全員がその迫力に息をのんだ。

 友達と家族をもっと大切にしなければいけないと思いました。今日は、新しい友達が出来て嬉しかったです。	 龍馬や戦争のことについて、ここで沢山の人の意見を聞けたので、戦争がないような正しい道の方に進んでいきたい、いかなければならないと強く思いました。	 龍馬が一番嫌いなことが戦争です。その戦争の原因になる小さなことから失くしていきい。	 戦争や平和について龍馬を通してよく知ることが出来た。世界が平和でいられるように戦争は絶対に起さず欲しいです。私には龍馬のように心の広い人になりたい。	 もっと歴史を勉強したいと思いました。そして、友達と皆でお話が出来るように努力したいと思いました。ありがとうございます。	 龍馬は戦争を嫌って、そういうことに対して大きい志を持っている人です。僕もそう言う大きい志を持っている人になりたいと思います。	 龍馬が目指した社会の大切さがよく分かりました。龍馬の敵とみなさない姿勢がすごく立派だと思うので、そこを見習って志を高く持つてその気持ちを突き通せるようにしたい、なりたいと思います。	 歴史とか龍馬のことを、今、起きている問題とか戦争に重ねて学んでそれぞれが向き合っているんだと思います。それでがんばるといふか、龍馬や吉田東洋のような昔の人に習って、見習っていったらいいなと思った。
 予想以上に素晴らしい発言ばかりだった。子どもたちのこれからが楽しみ。	 龍馬が戦争嫌いだっことを改めて知った。僕は戦争の元になるけんかとか、絶対止められないような人になる。	 今日のフォーラムに参加して思ったことは、戦争は小さな内に食い止め、龍馬さんが思った世界を作りたいです。	 龍馬のように、何でも一生懸命頑張ってく、「行動」に移せるようにしたいと思いました。	 今日龍馬さんがあの時代に色々やってたことが、さらに分かりました。で、僕はこれからは龍馬さんを尊敬したいと思いました。	 龍馬が戦争嫌いなわけが改めて分かりました。同時に思いやりと命の大切さも分かりました。これからは思いやりの心を大切に、思いやりのできる人間になりたいと思います。	 人とのつながりと、命の大切さを学びました。こうやって皆と意見を交わすのも人とのつながりだし、龍馬が大きな仕事できたのも人の協力あってのこと。私も将来は人の命を助ける仕事を見つけたらいいと思います。日頃から命とか周りの人を大切にしていきたい。	 沢山の意見を聞いて改めて龍馬の魅力が分かった。なので、龍馬の志を忘れず、世界の人々が幸せで平和な暮らしが出来ようように、少しでも力になれたらいいと思う。

拜啓 龍馬 殿

131通

6月21日〜9月20日

私の大好きな人と二人で来ました。今日は雨ですが、逆に大きな波の音を聞くことができ感激しています。
(6月21日 無記名)

でも、ここ高知へ来て、昔あなたが歩いたのではないかと想像するだけでワクワクし、その時代にタイムスリップした気持ちになります。
(7月8日 大阪 A・T 29歳 女性)

あなたの生き様、性格、全てに魅力を感じています。生まれ地をこの身で感じたいと思ひ、あなたがねむっている京の町からやってきました。また会いに来ますね。愛しています。どうぞお元気で。P.S.あなたの様に生きています。
(6月22日 京都 S・O 21歳 女性)

今回、友達と初めて龍馬さんの史跡巡りをしました。もともと歴史が好きで、今から幕末を勉強していこうかと思っていた中で、龍馬旅行、だったのでも、龍馬さん、今度の旅行で龍馬さんの男気、生き様にすっかり惚れこんでしまいました。龍馬さんのような人間は今の時代、ずいぶん減ってしまったような気がしています。少しさびしい世の中になつてしまいましたが、今、日本はガタガタとして、不安定な国になつていますが、どうか天国で見守ってください。そして時には喝を入れてやってください。いつか龍馬さんが作りあげようとした日本に近づきますように、心から願っています。
(7月14日 香川 H・F 21歳 女性)

小学生の頃に初めて知り勉強し今に至ります。あなたのお陰で歴史が好きになり、日本の歴史に興味を持ちました。今の時代も、良い時代とは言えませんが、でもあなたが考え、行動を起こしてくれたことで、日本が拡がり、自由な日本があるのだと思つています。余談ですが、京都に行つて良かったです。
(6月25日 東京 S・K 21歳 男性)

初めまして。家族が高知が大好きなのでよく来てます。龍馬さんのあきらめと頑張り、このころがすきだと思つています。新しい日本を見たいと思つています。いつか日本を見たいと思つています。私、龍馬さんのように頑張りたく思います。今は高校生なので、今できることを地道に頑張ります。本当に龍馬さんは格別です。
(8月1日 東京 Y・D 46歳 女性)

自分は今、来年社会人になりたす。正直不安しかありません。あなたが見たのと同じ海を眺め感じました。止まってたつて仕方ない！。出来る出来ないは関係なく、まずはやるしかない、信じなかつたら道は開けんのだと！あなたのような偉大な人になれることも、家族や今大切に精一杯生きて幸せに出来るように、一杯生きてたいと思つています。ここへ来て本当に良かったです。
(6月22日 徳島 Y・A 25歳 女性)

龍馬さんに憧れて、長男に憧れた。親族からは二男なのに、二人ともよく育ち、長男・龍馬は高三まで野球を続け、地区決勝で日大三高に負けましたが、よく頑張り、その後は警視庁のお巡りさんをしていきます。龍馬さんは日本を卒業し、小学校で体育の講師をしています。二人が中学生の頃、霊山へ行き、龍馬さん、龍馬さんの墓参りもしてきました。あなたのようにはなれませんが、

お元気でですか。久しぶりに記念館にきました。初めて会いにきたのは8年前で、まだ高校生でした。司馬遼太郎の「龍馬がゆく」を読み、龍馬さんに憧れて、初めての一人旅を楽しんだことを覚えています。あれから日本史が大好きになり、京都で一人暮らしを始めて、大学は日本史専攻でした。8年前の龍馬さんへの手紙に何を書いたかは覚えていません。ずいぶん変わりました。思っていたのとは違うと思つています。ここへ来て桂浜の海を眺めるとあの頃の楽しんでいた気持ち思い出したり、新しい気持ちになつたりします。桂浜の海は心のせんたくです。
(7月22日 徳島 Y・A 25歳 女性)

桂浜の銅像を初めて拝見しました。思つていた通りの迫力と感動がありました。あなたの志を百年後の若者にも感じてもらえる立派な施設もあり安心しました！
(7月26日 T・S)

龍馬さんに憧れて、長男に憧れた。親族からは二男なのに、二人ともよく育ち、長男・龍馬は高三まで野球を続け、地区決勝で日大三高に負けましたが、よく頑張り、その後は警視庁のお巡りさんをしていきます。龍馬さんは日本を卒業し、小学校で体育の講師をしています。二人が中学生の頃、霊山へ行き、龍馬さん、龍馬さんの墓参りもしてきました。あなたのようにはなれませんが、

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

ここに来るのは何回目かなあ。子どもが生まれて高知に来る機会が減りとも残念ですが、子どもも2歳。少しの速出も可能になったため、久しぶりに来ました！まだ何も知らない娘ですが、娘にも龍馬のことが大好きになつてもらえるように色々な話をしてみたいです。次来たときは娘が「りようまだー！」と言つてくれればいいなあ。
(7月28日 神奈川 M・K 29歳 女性)

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

お陰様で二人とも日本のために働いています。今後共、見守ってください。
(7月28日 東京 Y・S、K・S ご夫婦)

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

私は小学二年生の頃、NHKの「龍馬伝」を見ました。そのドラマで龍馬さんの人生を知りました。生まれた頃はまだ弱虫だったと知ったときはしつこく受けました。乙女さんやお龍さん、すてきな人にも出会えただすね。私は龍馬さんのような、正しいことを言う人になりたいです。将来も人と人いろいろなことを考えさせられる、尊敬される人になりたいです。色々なことを歴史から伝えてくれてありがとうございます。
(7月31日 兵庫 M・F 12歳 女子)

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

ここに来たのは4回目です。今年も家族全員で来られて良かったです。今回は飛行機の窓側に座れたので、時折、陸が見えました(いつも家族5人でジャンケンして席を決める)。龍馬さんが飛行機に乗ったらビックリしたでしょうね。ニッポンの形が見えるから「やー！って。龍馬の形も見えるよー！」とニッポンの形を空から見ながらいいけど、私は龍馬のように歩いて移動してみたいです。学生の頃にしておけばよ

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

私はこの場所へ来るのは10年ぶりくらいです。10年前、私は龍馬さんの銅像の前で一生を誓った人と二人で海を見てきました。この10年で日本も世界も私も変わりましたよ。私は二人の子どもを産んで、幸せな家族を持ち、10年前と同じ海を見ていた人は、龍馬さんと同じところへ旅立ってしまいました。彼の名前

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

よくて日本のヒーローのよう存在です。高知は楽しいし、最高に良い場所なので、また龍馬さんと高知に会いに来ます。
(7月15日 愛媛 K・U 16歳 女性)

お元気でですか。久しぶりに記念館にきました。初めて会いにきたのは8年前で、まだ高校生でした。司馬遼太郎の「龍馬がゆく」を読み、龍馬さんに憧れて、初めての一人旅を楽しんだことを覚えています。あれから日本史が大好きになり、京都で一人暮らしを始めて、大学は日本史専攻でした。8年前の龍馬さんへの手紙に何を書いたかは覚えていません。ずいぶん変わりました。思っていたのとは違うと思つています。ここへ来て桂浜の海を眺めるとあの頃の楽しんでいた気持ち思い出したり、新しい気持ちになつたりします。桂浜の海は心のせんたくです。
(7月22日 徳島 Y・A 25歳 女性)

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

龍馬さん、あなたの立った果てしない太平洋を今日見ましたよ。なんてあなたか包容力のある海なんでしょう。小さなことにとらわれず、人に優しく、大志を抱き、人を大切に愛されたあなたに納得がいきました。あなたに教えられた言葉を胸に、明日からこの人生もう少し面白くなつていきます。

もひとつ花メダルせよ

土佐の8月は、よさこいである。わがチーム、桂浜を中心とした有志、7団体でまとまる「桂浜・龍馬プロジェクトせよ」は歌、踊り、衣装デザイン、もちろん歌う歌手も...全て手作りという、いごっそう、チームで、桂浜・龍馬発信をテーマに昨年発足した。今年は2度目の出場。折り返しもよさこい60周年の記念の年である。否が応でも気分は高揚した。まだあるぞ。昨年は初出場のハンディがあつて本部席前では踊れず悔しい思いをした。一年溜まった鬱憤を爆発させる。当日80人の踊り子隊は颯爽と本部席前、追手筋へ突き進んだ。「ヨッちょレヨ！ヨッちょレヨ！うわさの土佐の坂本は日本を変えるカイタンジ(快男児) 敵さえ味方に変える奴...」

本部席からメダルのプレゼンターの一人が、踊りの流れを縫うように入ってきた。手には誰もが欲しがると赤な花メダル。そのメダルがTさんの首に掛かった。Tさんは68歳。元高校の校長先生、特に少年補導では超ベテランで教員の子の信頼も厚い。だが、肝心のよさこい踊りは、お世辞にも上手とは。そこへ花メダル。ご自分が分かつているからTさんはしきりに照れておられた。意味するところ、それは、よく目立った存在だったので賞、だろう。

後日談がある。まだ祭りの疲れも抜けきらず日曜日、地元の子のデイケアサービス施設から「入所者の希望なんです、踊っていただけませんか」チームに踊りの依頼があつた。「ちよつとねえ」躊躇の声を一発で吹き飛ばし「よっしや行きます！」と答えたのがTさんだった。十数人で施設にお邪魔した。そして40人ほどのおじいさんおばあさんの前で踊った。2曲踊ったところでなんとアンコールの音が。手拍子打が止まらない。見ると涙を流しておられる方があつちにもこつちにも。Tさんは、全員のお年寄りと握手を交わしていた。「ワシもじきに皆さんの仲間じゃきに！」



笑顔に涙を浮かべていた。もう一つ花メダルを贈りたくなつた。

大人気！龍馬の文字で名刺を作れるコーナー



7月から2階子ども展示室に新しいコーナーが登場した。龍馬が書いた文字で名刺を作れるコーナー。

龍馬の文字を、手紙から一文字ずつフォントショップで抜き出して、1センチ角のシールにしており、自分の名前のひらがなを選んで名刺サイズの台紙に貼ると、オリジナルの名刺を作ることができるといふもの。台紙の絵柄は全部で12種類。龍馬の立像写真、シエイクハンド龍馬像、可愛らしいイラストなどから好きなものを選んでいただけます。シールと台紙はもちろん無料。「龍馬が自分の名前を書いてくれたみたいで嬉しい」と登場したその日から大変好評で、夏休みにも人気のコーナーとなつた。

その反響は予想以上で、全国の新聞やテレビ番組からも取材や問合せが次々と寄せられ、様々なメディアで紹介された。ある日、ネット配信されたニュースを見たという方から一通の封書が届いた。龍馬の大ファンであるご主人のために名刺を作つてあげたいけれど、どうしようというお手紙と、返信用の封筒が同封されていた。本来は入館された方へのサービスなのですが、3枚の便箋に綴られた熱い想いを受け、名刺を作り送らせていただいた。すると、またすぐにお返事の手紙が届いた。実はご主人のお誕生日のプレゼントであつたこと、名刺を見せるととても喜び、翌日はその名刺を財布に入れて出動していったことなど、手紙をくれた奥様ご本人もとても喜んでくださっていることが伝わってきました。そして、最後は「近い将来、必ず記念館を訪ねさせていただきます」という一文で締めくくられていた。このコーナーがちょっと素敵な物語をつくつたことに驚きと共に喜びを感じた出来事でした。

尾崎由紀

■ 11月は“龍馬月間”

手筒花火・ハンド・イン・ハンド・朗読コンサート 龍馬スピリッツ発信ぜよ

まもなく龍馬月間。今年も11月15、16、17日の3日間、様々なイベントを予定している。当館の開館記念日でもある15日(金)は終日入館は無料。夕方6時30分から桂浜で手筒花火打ち上げイベントが行われる。毎回趣向を凝らして今年は3回目である。スタートは地元桂浜地区の有志で作るよさこいチーム「桂浜・龍馬プロジェクトぜよ!」の演舞である。踊りの余韻を引きながら、当館職員のアカペラ「よさこい節」が波音をバックに流れ、それを合図に花火の開始だ。最高潮時には津軽三味線も加わる。

白い花火でフィナーレ。

また、打ち上げ後の手筒を抽選でプレゼントする。火薬の匂いが虫(魔)を寄せ付けないことから「魔よけの手筒」として玄関などに飾ると縁起がいいそうで、毎年人気のもの。今年は大小24本が用意される。

17日(日)は早朝より、桂浜龍馬像からシェイクハンド龍馬像までを握手でつなぐ「レッツゴー!ハンド・イン・ハンド」である。先の東日本大震災から、「絆」「つなぐ」など人間社会の基本の確認が強く論議されだした昨年、このイベントを開始した。見事900人の“握手の鎖”が出来た。つながったその瞬間、桂浜が確かに感動の波に包まれた。昨年の参加者へ、開催決定のお知らせを送らせていただいたところ、翌日から参加申込のFAXが次々と届き始めた。多くの方がこの一年とても楽しみに待っていてくれたことを実感し、準備にもより一層力が入っている。

また、15~17日の3日間で県内3会場を巡回する朗読コンサートを開催する。女優の小林綾子さんに、龍馬からの手紙を乙女姉さんになって読んでもらうすっかり定着してきた趣向だ。今回は特に龍馬を支えた女性にスポットをあてた。小林さん、月琴奏者の永田斉子さん、ピアニストの福田明子さんをお迎えしての、女性たちが“紡ぐ”コンサートです。また、1通だけ残る龍馬が妻・お龍に宛てた手紙も朗読することになっている。どうぞお楽しみに。

尾崎 由紀



★ 海の見える・ぎやらしい ★

11月の展覧会 (11月1日~11月31日)



「展覧会ポスター」作：楠本 剛

■ 龍馬と幕末イラスト展 百花龍舌パート3 今年も龍馬三昧!

お陰様で、今年で3回目を迎える「龍馬と幕末イラスト展 百花龍舌」。関東・関西で活動している龍馬ファンのアーティスト〈楠本剛・永野尋美〉が、今回も盛りだくさんの内容で、11月の龍馬月間を盛り上げたいと思います。

この「百花龍舌」は、ひとつのイメージにこだわらず、いろんな形・線で大好きな龍馬さんを自由に表現したいというのがコンセプト。お馴染みの龍馬さんの写真のイメージからどんどん離れていくようなイラストも出てくると思います。ご覧いただく中で、こんな感じで自分も描いてみたいなと思っていただけたら幸いです。

「これまでのドラマや小説などで作られてきた龍馬さん像からどこまで飛び出せるか?」…ということで、可愛い龍馬さんや、レトロさが匂う龍馬さん、面白くデザインされた龍馬さんやその仲間たち等々、様々なタッチによる幕末の世界をご覧ください。

期間中〈11/16(土)または17(日)〉に、恒例の「劇団志士座乙女座」による芝居や似顔絵コーナーも予定しております。

楠本 剛

入館状況

2013年9月20日現在(開館以来7,936日)

- ◆総入館者数 3,441,00人
- ◆最多入館 (2010年5月2日) 6,686人
- ◆最少入館 (2004年10月20日、台風のため) 8人
- ◆2013年度最多入館(2013年5月4日) 3,087人
- ◆2013年度最少入館(2013年6月27日) 91人

編集後記

警備員付きアメリカからの貴重な資料「漂異紀略」、後追うように夏休みは限定で龍馬の血判展示と連続ビッグ資料展示である。それだけでなく異常気象で猛暑の夏がさらにヒートアップした。はやしたてるようによさこいが弾けた。熱気も団扇も、もう止まらない。龍馬の文字で名刺作りも人気であった。夏の終わりは圧巻の「終戦記念日に誓う! 第一回夏休み子ども・龍馬フォーラム」。「戦争と平和」「龍馬と命」。子どもらの顔が忘れられない。余韻の中で87号の原稿を待つている。(モ)

館だより“飛騰”第87号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏

発行日 2013(平成25)年10月1日 〒781-0262 高知市浦戸城山830
 発行 高知県立坂本龍馬記念館 TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015
 http://www.ryoma-kinenkan.jp
 「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円・高校生以下無料

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名
 高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

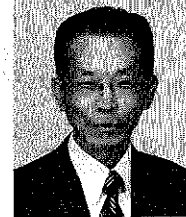
館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。ご希望の方は、90円切手5枚をお送りください

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

私のテーマ

高知市立第四小学校 龍馬誕生地の学校としての誇り

校長 川崎 二三雄



第四小学校は、上町一丁目の坂本龍馬誕生地の碑が校区にある。その碑から西北へ150メートル程行った所に学校がある。まさに龍馬誕生地の学校としての誇りを持って教育に取り組んでいる。

一 学校の沿革

本校の沿革は、明治5（1872）年の学制発布により4つの寺子屋を合併して、順応学舎を設立したことに始まる。明治24（1891）年の市町村制が発足し、旧高知市が発生する。その際、高知市立第一、第二、第三、第四尋常小学校がつくられ、昭和22年（1947年）に第四小学校と改称し、現在に至る。歴史で言えば142年前。まさに龍馬の時代の「余韻」の中だ。

高知市の発足以来の学校では最も歴史がある。明治時代からの学校番号が学校名に残っているというのも全国的にも珍しいとのことである。

二 龍馬とのゆかり

龍馬誕生地の碑とともに校区には多くの龍馬を、また幕末を知る遺跡が残っている。まず、正門横には「子爵河野敏謙君誕生之地」の碑がある。河野敏謙（満寿弥）は土佐勤王党員で、文久二（1862）年、龍馬が沢村惣之丞と脱藩する折り朝倉村まで見送った人物である。維新後は官界

に入り、副総理、司法大臣などを歴史に足跡を刻んでいる。その他、例えば親友、〃餓頭屋〃近藤長次郎邸跡の碑、世界への目を開かせた「師」河田小龍塾跡、少年時代、剣道の修練に明け暮れた日根野道場跡などがある。

三 校歌、龍馬の絵と学校の木

さらに龍馬を身近に感じさせるのが本校の校歌である。校歌の

一節に「坂本龍馬」の名前がうたい込まれている。しかも戦前から入っている。

戦前の校歌には「ここぞ我らの学びの家居 坂本龍馬生い立つ所」とある。それが現在の校歌（昭和39年制定）では、「城もほほえむ文化の園は 坂本龍馬の生まれたところ 心をみがき身をきたえ あすの日本に役立とう 輝く第四小学校」とある。

「坂本龍馬」の実名入り校歌は本校だけだと思ふ。また他にもある。昭和30年代にあった講堂には、龍馬の立像の絵（11×15メートル）が掲げられていた。その絵は現在は校長室に移されているが、迫力の油絵である。作者は楠水直枝（1860～1939）。高知尋常中学校（現在の追手前高校）の教員だった当時、洋画家、山脇信徳や作家、寺田寅彦などを教えている。「土佐洋画界の父」と呼ばれている人である。

そして、学校の木はイチヨウである。校章にもイチヨウの4枝の葉が使われている。校内にはイチヨウの木が3本あり、今から26年前に児童



校庭に立つイチヨウの木「りょうま」

の油絵である。作者は楠水直枝（1860～1939）。高知尋常中学校（現在の追手前高校）の教員だった当時、洋画家、山脇信徳や作家、寺田寅彦などを教えている。「土佐洋画界の父」と呼ばれている人である。そして、学校の木はイチヨウである。校章にもイチヨウの4枝の葉が使われている。校内にはイチヨウの木が3本あり、今から26年前に児童



楠水直枝作、校長室にかかっている立位の龍馬

会の子どもたちがそれらの木に「りょうま」「おとめ」「しんたろう」と命名した。時々、一年生の児童が登校した際、イチヨウの木に向かって「おはよう、りょうまさん」と挨拶しているのがほほえましい。

四 龍馬学習と 社会科学研究会

本年10月25日（金）午後1時40分から本校で高知県社会科学教育研究大会を行う。6年の社会科学公開授業で「新しい時代の幕開け」船中八策と大政奉還」として龍馬の新政府綱領八策を学習する予定である。龍馬のラストメッセージを子どもたちに伝えたい。（参観自由）

高知市立第四小学校 校歌

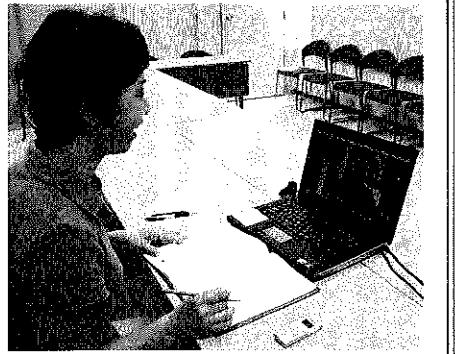
植野三鶴 作詞
丸山和雄 作曲
二、城もほほえむ 文化の園は
坂本龍馬の 生まれたところ
心をみがき 身をきたえ
あすの日本に 役立とう
輝く 第四小学校

研究者から演奏家へ

魅せられて4半世紀

月琴奏者 永田 斉子さん

「話題人」のインタビュー



県 立坂本龍馬記念館では、長崎の小曾根家が幕末に輸入した月琴を所蔵している。

龍馬の妻・お龍も小曾根家で月琴を習ったからである。展示資料であった月琴を修繕して楽器として蘇らせて、2007年から数回演奏をした。

当初、月琴奏者はいなくて、最初はハープ奏者に、次いでリュート奏者の永田斉子さんに弾いていただいた。永田さんは「あのときをきっかけに月琴演奏に取り組み始めました」と振り返る。

今秋開催される「女性が紡ぐ龍馬さん～龍馬の手紙を読む朗読コンサート」(高知県立坂本龍馬記念館主催)で、永田さんは月琴を奏でる。

東京にいる永田さんとスカイプをつなぎ、月琴への思いを聞いた。

月琴との出会い

パソコンの調子が悪くて、スカイプがつながりにくくてすみませんでした。さあ、いよいよお話を聞くことにしましょう。

6年前、初めて永田さんに月琴を演奏していただいたとき、演奏もさることながら、語り口調がとても印象的でした。月琴に対する深い思いを感じましたよ。長崎出身の永田さんと月琴とのつながりに大変興味があります。

私は長崎出身で、幕末長崎を中心に流行った楽器・月琴をテーマにして大学の卒論を書きました。なぜなら、中学3年生のときに見た「長崎物語」というお菓子のテレビCMが忘れられなかったからです。

そのCMは、中村キラさんという女性が、歌いながら月琴を演奏しているものでした。私は小学生のときからギターを習っていて、興味がありましたね。なんていう音楽なんだろう。何語で歌っているんだらうって。

キラさんは小曾根流月琴の最後の伝承者と言われています。月琴にはいくつかの流派があって、長崎では皆さんご存知の龍馬の知人・小曾根乾堂さんが中心となった小曾根流です。大坂や江戸にも流派がありました。

龍馬の妻・お龍さんは小曾根乾堂の娘・キクさんに月琴を習ったようです。そのキクさんから月琴を直接習った、最後の弟子が中村キラさんなんです。

150年前の月琴で今も演奏

月琴に流れる哀愁を感じる話です。例えば、私たちがお龍さんを通じて月琴を知ったようなものです。お龍さんは月琴の功労者かもしれませんね。月琴は、フアソンに当たる音階がなく、少し調子はずれのようなたどたどしい音色ですね。曲も限られているそうです。永田さんから見ると月琴についてお話しください。

私たちが今手に入れることができる月琴というのは、実はほとんどが幕末、つまり今から150年ほど前の当時のものです。もう作り手もいませんからね。素材は軽い桐でできていて、女性向きの楽器なんです。幕末から明治の写真を見ても女性性が持っています。私自身、月琴に対しては文献などで記録する研究者という、いわば傍観的な立場にいました。人前で我流に

私は1987年から3年間、中村キラさんに会って話を聞き、伝承曲などをカセットに録音しました。

お龍の師・小曾根キクと、その直弟子・中村キラ

スカイプの調子もよくなりました。今までなかなかつくり聞けなかった話を、離れていても聞けるなんて、便利な時代ですね。それにしても、すごいですね。お龍さんに月琴を教えた小曾根キクさんの直弟子の方を、大学生の永田さんは取材されたのですか。とてもワクワクするようなお話ですね。パソコンを使いながら幕末にタイムスリップしています。

その中村キラさんから、永田さんはどんな話を聞かれたのですか。

キクさんは神奈川県に嫁ぎ、昭和8年(1933)77歳のとき、長崎にお里帰りしました。そこで、17歳のキラさんはキクさんに月琴を習ったのです。

キクさんは月琴演奏を、芸者であるキラさんに教えるということをや、最初は拒んでいました。月琴は、趣味や教養としての家庭音楽と、芸者などのお座敷遊びとに大別されます。もちろんキクさんは教養高い小曾根家の出身ですからね。

それでも、キクさんがキラさんに教えることを承知したのは、翌年の長崎国際産業観光博覧会で文化紹介のために演奏するということだったからです。ただし、酒席で絶対演奏してはならないという弾いてしまつて、伝承を変える不安があったからかもしれません。しかし、記念館所蔵の月琴を弾いたときから気持は変わりましたね。弾くからには音楽的にいい演奏をしたいと思いますようになりました。450年前のリュートに比べれば、月琴はまだ150年前のものですしね。

私が秋のコンサートで演奏する予定の「九連環」や「茉莉花」という恋の歌は幕末当時のものですが、私が独自に復元した明治時代の曲も披露します。

私の月琴も明治時代のもので、号を「乙女」と「照葉」と言います。写真の私が持っている月琴は、「乙女」です。楽器の持つオリジナルの良さを生かして、これからもいろいろなお話で演奏していきましょう。

秋のコンサートが楽しみです。またスカイプでもお目にかかりましょう。ありがとうございました。



条件つきですね。丸暗記の特訓が1ヶ月続きました。そうやって習得した月琴の腕を落とさないため、キラさんは練習を欠かさなかったそうです。原爆が落ちたときも、月琴を避難させて人知れず稽古に励んだと言います。

キラさんってどんな人だったんだろう。写真は撮らなかつたのですか。

そう。若かった私は、キラさんの写真を撮ることも忘れていました。キラさんのインタビューをカセット録音することだけで精一杯でしたものね。

京都と長崎で月琴を学んだお龍

それにしても、お二人の様子が目に浮かびますね。二人とはキクさんとキラさん。そして、キラさんと永田さん。その向こうに、龍馬とお龍の姿も浮かんできました。

龍馬はお龍に、「一戦争済めば山に入つて安楽に暮らすつもり。退屈なとき聞きたいから月琴でも習つておけ」と言っています。龍馬は平和な時代が来れば、音楽を夫婦で楽しみたい

永田さんには、「たおやか」という形容詞が似合う。ピンと張つた弦のような長崎女の心意気と、柳のようなしなやかさを感じる人だから。それが月琴の演奏や語り口にも表れている。やわらかな赤ん坊を抱くように楽器を愛おしむ姿も美しい。研究と表現が伴う演奏家として、永田さんの音楽にはこれからも深みが増していくことだろう。

永田 斉子 ながた せいこ プロフィール
リュート奏者。月琴奏者。明清楽研究者。長崎生まれ、東京在住。国際基督教大学(音楽学専攻)卒。

「女性が紡ぐ龍馬さん
～龍馬の手紙を読む朗読コンサート」
(朗読・小林綾子、月琴・永田斉子、ピアノ・福田明子)

11月15日(金)安田町文化センター
11月16日(土)赤岡町弁天座
11月17日(日)高新RKCホール
各日とも14:00開演、入場料1,000円

前田 由紀枝
(まえだ ゆきえ)
現代龍馬学会理事
高知県立坂本龍馬
記念館学芸主任

吾輩は猫である

宮川 禎一

どんな文章でも坂本龍馬の名前がでてくるとちよつと気になる。それが夏目漱石(慶応三年―大正五年)の『吾輩は猫である』の中であればなおさらだ。

この小説は明治三十八年(三十九年に雑誌『ホトトギス』に連載された漱石最初の長編小説である。あまりにも有名なので説明も不要であろう。龍馬が登場するのは小説の前半部である。

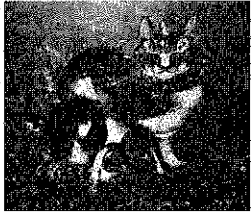
吾輩の飼主である苦沙弥先生は漱石の分身なのかいつも胃の調子が悪くタカジスタア―ゼなどの薬のお世話になっている。それが効くのか効かぬなどと延々うるさい。先生は知り合いからも胃腸の調子を取り戻す方法を聞いたりしていた。そんなある時、某氏から「それは按腹揉療治に限る。ただし普通のはゆかぬ。皆川流という古流な揉み方で一二度やらせれば大抵の胃病は根治できる」と聞いたようだ。そして「安井息軒も大変この按摩術を愛していた。坂本龍馬のような豪傑でも時々治療をうけたと云うから、早速上根岸まで出掛けて揉まして見た」のだ。しかしその揉み方があまりにも残酷で苦沙弥先生には合わずに

一度で止めた、という一節である。

小説ではあるがこんな話を書くとは夏目漱石は実際に上根岸の皆川なる按摩師方での施術を受けたのではなからうか。その際に按摩師の口から施術の由緒として安井息軒や坂本龍馬などの昔の有名顧客の名前がでたのではないだろうか(あるいは某氏の言なのであろうか)。

龍馬は自分の風邪や怪我のことを度々手紙に記しているが、胃の具合が悪かったなどと書いた部分はない。なのでこの話が事実に基づくものかどうかは定かではない。しかし気になる記述ではある。夏目漱石が坂本龍馬を「豪傑」と書いているところが面白い。また明治三十八年には龍馬の名前が世間に普通に知られていたことも分かつて興味深いのだ。

今回は犬が歩いて猫に出会うの段である。



重文「書画貼交屏風」のうち猫図(京都国立博物館所蔵)

コラム・龍馬のこと

「龍馬の銅像から龍馬さんへ」

中田 良政

私の実家は昔話「宇賀の大火」に出てくる高知市長浜の宇賀である。小学校の遠足と言えば桂浜となる、そこにはあの坂本龍馬の銅像が立っている。何の知識も無い頃から何気なく見てきた。今本拠地は豊田に置き文旦畑の手入れにたまに手結山に帰ってくる。

高校の頃NHKの「竜馬がゆく」を見ても原作に触れることもなく過ごしていた。

それが突然龍馬のファンとなっていく、それは「国盗り物語」をNHKでやるというので原作を買ったことに始まる。上巻を一気に読んで友人に貸したことでまずは司馬遼太郎の虜になり「歴史の話で酒を飲む会」なる怪しげな集まりが出来た。そうすると坂の上の雲、峠、竜馬がゆくと読みあさりをはじめ。ついに龍馬一辺倒の話となりとうとう寺田屋まで5名ほどで泊まりに行くことになった。あの歴史的な建物に興奮してこの会は「歴史の話で酒を飲む会」であるために寺田屋のビールの在庫がなくなるといっておまけまでつく。

そうして熱が高まった頃になんと今度は「坂本龍馬を十万円札にする会」となり聖徳太子を十方に譲り「坂本龍馬を五万円札にする会」と変更した。

其の熱の高い頃に高知で「龍馬祭」が開催されるという連絡が入り我が一寸フザケタそれでも真剣な会も参加する事となった。

まだ龍馬記念館も無い頃で国民宿舎も旧のものでそこで第一回の龍馬祭が開催された、参加されている方々はバリバリの龍馬研究の人たちがわんさかと居る会で一寸温度差を感じながら皆さんの発表するのを聞いていた。そこでいろんな情報を頂き俄龍馬ファンが「龍馬さん」と呼ぶようになっていたのである。

“話してみるかよ”

東洋暗殺

吉田東洋の会 会長 松本 和明

司馬遼太郎は著書「土佐の夜雨」のあとがきで「暗殺だけは嫌いだ。暗殺者は人間の風上にもおけぬ。その歴史的寄与は、ない。ただ、桜田門外ノ変だけは歴史を躍進させた例外である。以後の幕末の暗殺は、暗殺者の質も低下し功名心の対象となった。暗殺者は否定すべき」と記す。

東洋の暗殺をその著書から追った。

武市は東洋に会う。徳川家は無用と。東洋は山内家は徳川の恩義を忘れては人道はないと。東洋は西洋事情を吸収し富国強兵策をとる開国論の立場。勤王攘夷論の武市には東洋は井伊大老と類似しに思えた。

武市の報告に黨員は、関ヶ原以来粟飯を食らわされたのは郷士だ。藩こそ我々の敵。長曾我部から出た家系の東洋は郷士と同種族だが、見誤った。武市は薩長土三藩密約の実が消える焦燥感に駆られ、「斬る」と決す。

竜馬は憂う。武市の馬鹿め。全藩勤王は理想論。参政暗殺に老公が黙るまい。されば老公まで殺す覚悟はあるのか。

だが、武市は反東洋と糾合して暗殺を実行した。さらに京で、以蔵を含めた殺人者をして佐幕派の要人を斬らしめた。

竜馬は武市を惜しむ。古来、暗殺で大事を成した者はない。

終に京の長州藩が駆逐されるや、容堂は勤王党の逮捕投獄に踏み切った。

東洋の横死は無駄死になるや。